

# 境川クリーンアップ作戦 開催趣意書

境川クリーンアップ作戦は、

町田市・相模原市の両市民が協働で境川の清掃作業をすることにより、  
地域コミュニティの育成と環境美化・保全の意識高揚を、目指しています。

(背景)

町田市は東京都の南部に位置し、相模原市に隣接しています。昭和33年に周辺の1町3村の合併により東京都で9番目の市として制定されました。緑豊かな多摩丘陵に抱かれた首都圏のベッドタウンです。かつては養蚕で栄え、鎌倉街道の宿場町として賑わい横浜への道は「絹の道」と呼ばれていました。

現在では人口が43万人を超え、町田駅は小田急線とJR横浜線の主要駅として都内でも屈指の乗降客数を誇り、商圏人口は200万人以上を誇る一大商業都市となっております。

一方、相模原市は神奈川県最北端に位置しています。昭和29年の市制施行以来は、首都圏のベッドタウンとして、またいくつかの工業団地や市域に点在する商業集積地、さらに緑豊かな自然環境、等々で発展を続けています。

現在では人口が72万人を超え、津久井町・相模湖町・城山町・藤野町と合併するなどを経て、現在は政令指定都市として、さらに大きく発展しようとしています。

そのような町田市と相模原市は、およそ100年前は同じ行政単位に属していました。武蔵の国だった町田、相模の国だった相模原、その名称から武相地区とも呼ばれています。前述の歴史の背景や地形環境等から、両市民の生活圏や経済圏は共有されることが多い実情があります。

この武相地区の将来を考える時、単なる行政単位の区分けではなく、生活圏や経済圏を中心とした広域まちづくりが欠かせません。さらに、今後のまちづくりにおいて重要なキーワードとなる市民自治の視点からは、市民レベルの両市のコミュニティづくりは大変重要で意義のあるものです。

その町田市と相模原市の間を流れる「境川」は、神奈川県と東京都との境の大地沢に端を発し、相模湾の江ノ島へと注ぐ全長52.1kmの2級河川です。

この川に接し暮らしている町田市民と相模原市民にとって境川は身近な存在であり、市民の憩いの場となっております。また、様々な動植物も生息する貴重な川です。

そんな境川にひとりでも多くの人々が関心を持ち、境川の清掃を協働で行なうことにより、町田市民と相模原市民とが共に地域のまちづくりを進める地域コミュニティの育成と、川を大切に作る心や自然環境美化・保全の意識高揚を目指し、26回目の境川クリーンアップ作戦を開催します。

以上